

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
新エネルギー委員長 中島 稔
両団体専務理事 清原 淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第324回)

日時 平成30年7月3日(火) 午後1時半～4時
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、最近の再生・新エネルギーについて想う
挨拶 中島稔新エネルギー委員長
 - 2、太陽光発電システムおよび燃料電池発電システムの
高効率制御方式
解説 板子一隆神奈川工科大学教授
 - 3、『新エネルギー関連ニュース NO. 177』
解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る6月5日開催の第323回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。
まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して開会挨拶がありました。ドイツでは、2020年までに8基すべての原発を停止すると発表した。それに従い3年前に一基を停止したところ、今年に入って電力不足から周波数遅れが発生し、時計が6分遅れるなどの社会問題となった。日本は第5次エネルギー基本計画で原発比率を20%にすると定めたが、ドイツのこのようなニュースを見ると、原発がある程度の比率を占めていくのもやむを得ないの

ではないかと考える。風力発電のコストは世界的に低下傾向にあるが、日本では設置コストが多額で低コストとは言えない。そうした中、洋上風力発電への取り組みがいくつか紹介されている。船を海面下に沈め、風車をその上に建てるという方式なら、低コストである。

まず、清原淳平専務理事より、本日の講師・亀田光昭新エネルギー研究所代表の経歴紹介がありました。

次に、亀田代表より、「メタノール水溶液水素発生装置とその実用化」と題して解説をいただきました。今回の研究は、安価なエタノールやメタノールから水素を取り出し、安価な水素を得る方式である。メタノール水を300℃に熱した装置を通す。その通路には触媒としてプラチナが入っている。この装置を通ると、反応が起きCO₂と水素が発生するという仕組みだ。現在は、これを携帯電話の基地局の予備電源としての用途を考えている。現在は鉛蓄電池が使用されており、3時間しか持たない。これでは災害時に対処できないので、簡素で長寿命の装置を作れば、災害時に通信が途絶えることはない。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.176』の解説がありました。今回は、○ナトリウムイオン電池の寿命や性能を高める技術開発が相次ぐ。ナトリウムを電解液に多く溶かすことで放電中に壊れるのを防いだ。また、正極にマグネシウムを加えて蓄電率を上げる取り組みも。ナトリウムイオン電池は安価だが、電池の重さや電圧の低さが問題だった。○燃料電池用の安価な触媒の開発。白金の使用量を減らす。○燃料電池向け酸化物イオン伝導体の高伝導性原理を発見、○アンモニアと燃料電池で直接発電する固体酸化物燃料電池。燃料を水素に変換する改質器を経ずに直接供給する。○アルカリ水電解設備を利用したグリーン水素製造装置の実験開始。○薄くて曲げられる太陽電池の製造。カリウムを混ぜて丈夫に。家庭用に用いるための耐久実験を開始。○CO₂を原料に太陽光で発電するバイオ燃料電池。○再生可能エネルギー関係の雇用が全世界で1千万人規模に。中、米、印、独、日、伯の6か国が牽引、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。
次回、7月3日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587